

協会ニュース

平成19年 11 月 13 日
中国地区品質経営協会
広島市西区横川3丁目5番9号 世良ビル404号
TEL (082) 532-6844 FAX (082) 532-6845
e-mail qmac@a1.mbn.or.jp
URL: http://qmac.jp/

平成19年度 第3回シンポジウム モノづくり経営革新 ～日本に残る「モノづくり技術」～

- ◆ 日 時: 平成19年11月12日(月) 13:30～17:00
- ◆ 会 場: 広島インテスビル 14階 (広島市中区)
- ◆ 出 席: 16社 113名

第2回ものづくり日本大賞受賞者から自動車のプラスチック部品製造に関し、日本に残る「モノづくり技術」に焦点を当てたシンポジウムを開催しました。20 社から、ものづくり日本大賞と関係のある中国経済産業局からの参加も含め 100 名を超える出席がありました。



菅氏

先ず、ものづくり日本大賞・優秀賞のダイキョーニシカワ(株)R&D センター 主席研究員 菅 武春氏の「新技術開発と生き残り戦略」と題した講演です。部品メーカーとして、付加価値と国際競争力の向上を目指し、良い物をより安く(ハーフコスト作戦)、新しい物をより早く(同時並行開発)、そしてモジュール(機能集合体)開発など、色々な事例の紹介がありました。

第一世代開発として、世界シェア 99%のフィルター内臓型樹脂製オイルストレーナ、欧州に輸出までしたインテークマニホールドなど、第二世代として、ものづくり日本大賞受賞のモジュール化製品のフロントエンド、ドア、リフトゲートなど、そしてこれらの開発を支えるCAE、実験・評価設備、DSI・DRIや長繊維含有樹脂の成形技術、熱硬化性樹脂などのリサイクル事業、そして現在進行中の環境を配慮した生分解性プラスチック利用や、ハニカム化による吸音性の向上と軽量化などの開発です。多岐に渡る内容で、あちこちに菅氏の思いや狙いが付け加わった講演でした。ものづくり日本大賞では、「モジュール(機能集合体)開発により品質・コスト・納期・環境の改善、作業性の改善や、市場でのサービス性の向上」を図ったことでの受賞ですが、どの開発においても、総合力に加え、きらりと光る他がまねできないモノづくり技術により、販路が拡大しているとのことでした。

次に、ものづくり日本大賞・内閣総理大臣賞の(株)大嶋電機製作所 OSI-UMSS 開発推進室 室長 梅澤 隆男氏の「小さな型内に大きな工場」です。自動車ランプなどの完成品を射出成形機の金型内で一気に製造する金型内ランプ完成システムや金型内成膜システムで、海外生産に勝つ品質と究極のコストダウンを実現する技術の紹介です。

従来、自動車のランプなどの反射板を有する部品は、一つ一つの部品を成形し、別工程で真空蒸着等により成膜して組立工程で完成品としますが、本システムでは、同一の射出成形機の金型内で、プラスチック成形から反射膜の成膜、組立、接合までを行い完成品が機械から製造されて出てくるのです。この結果、蒸着工場が不要になる等の大幅な設備投資削減、中間在庫や物流ロスなどの削減とともに、クリーンを要求される部品へのゴミの混入も防止できるなど画期的なモノづくり技術です。

大嶋電機製作所は、出会いを大切に開発、きらりと光るモノづくり技術により、ドアミラーなどで販路を拡大しているとのことでした。

梅澤氏はサイドターンシグナルランプ(銅、アルミ、ステンレスを蒸着した製品)と、ドアミラーのサイドターンランプ部を持参いただき、休憩時間に説明をしてくださり、参加者の理解が深まったことと思います。



梅澤氏



梅澤氏による製品説明



宋教授

最後に、広島工業大学 宋 相載教授の司会で、活発な総合質疑応答を行いました。今回は参加者の多くが自動車関連の人であり、講演者の自動車部品への熱き思いの回答に、うなずかれた方が多かったようでした。